第２１回 ソーシャルワーク研究所 シンポジウム

2026年 12/6（日） 対面・オンライン 選択できます

ソーシャルワーカーとして共有したい専門職アイデンティティ
－尊厳ある暮らしを支える社会福祉のアプローチとは－

●プログラム（敬称略）

開会の挨拶、開催趣旨と進行方法の説明　１３：００～１３：１０

所　　長：**北 川 清 一**（ソーシャルワーク研究所 所長／明治学院大学 名誉教授）

総合司会：**丹野眞紀子**（大妻女子大学 教授）

第１部　【 主 題 講 演 】　１３：１０～１４：２５

講　　師：**川 村 隆 彦**（エスティーム教育研究所 代表）

「ソーシャルワーカーとして共有したい専門職アイデンティティ
－生きる喜びを伝え、明日への希望を分かち合うために－」

※ 講演後、参加者と講師による質疑応答を行います。

第２部　【 指 定 討 論 】　１４：３５～１６：１０

発題者１：**風 間　　暁**（認定特定非営利活動法人ASK 理事／一般社団法人Void 理事・ソーシャルワーカー）

「子どもの尊厳ある暮らしを支援するソーシャルワーカーへの役割期待
－『虐待サバイバーのピアワーカー』として－」

発題者２：**松 浦 千 恵**（安東病院 メンタルヘルスソーシャルワーカー）

「『医療』と『地域』における実践で得た専門職アイデンティティ
－『バザールカフェ』の取り組みを手がかりに－」

発題者３：**森　　玲 子**（東京ボランティア・市民活動センター 相談担当専門員）

「相談機関として掲げたミッションを具現化する取り組みと課題
－『自助』と『共助』をつなぐ変革者の役割を問い直す－」

第３部　【 グループディスカッション 】　１６：２０～１７：５０

・前半で、五つのグループに分かれてディスカッションを行い、学びを分かち合います。
・後半で、グループディスカッションの成果報告を行います。
・第１～３グループ（対面型）は申込み時に希望を伺います（申込み状況によりご希望に沿えない場合があります）。

［第１グループ］ファシリテーター：**沖倉智美**（大正大学教授）＋ **風間暁**
［第２グループ］ファシリテーター：**稗田里香**（東京通信大学教授） ＋ **松浦千恵**
［第３グループ］ファシリテーター：**新保美香**（明治学院大学教授） ＋ **森玲子**
［第４グループ（オンライン）］ファシリテーター：**丹野眞紀子**（大妻女子大学教授）
［第５グループ（オンライン）］ファシリテーター：**川向雅弘**（聖隷クリストファー大学教授）

閉会の挨拶（総括）　１７：５０～１８：００

所　　長：**北 川 清 一**

●開催趣旨

日本における社会福祉領域の人材養成は、1901年に留岡幸助が家庭学校に併設した慈善事業師範学校に起源があるとされている。優れた見識をもち、家庭学校事業の継承者として日本の感化事業・社会事業の発展に寄与した人材を輩出した取り組みは注目に値する。現在のような大学等での人材養成が本格化したのは第2次世界大戦後であり、アメリカ占領軍総司令部のリーダーシップに拠るところが大きい。1987年に成立した「社会福祉士及び介護福祉士法」の施行以降、持続可能な社会福祉の制度運営に貢献する人材の養成は、厚生労働省から国家試験受験資格の付与を認められた大学等に課せられ、大きな使命と責任を担うこととなった。

しかし、ここに至って社会福祉系大学・学部の定員削減や閉鎖が急速に広がり、担い手不足の問題と並行して顕在している社会福祉実践者の「質の劣化」は、「不適切なかかわり（maltreatment）」問題となって深刻化している。福祉事務所、児童養護施設、障害福祉関係施設、介護施設、保育所等で支援を担当するスタッフによって引き起こされる事件が後を絶たないのはその証左である。

日本を代表するソーシャルワーカーの一人として知られる阿部志郎（横須賀基督教社会館長、日本社会福祉学会長、日本ソーシャルワーカー協会長、神奈川県立保健福祉大学長等を歴任）は、戦後間もなくの頃に、御殿場のハンセン病療養所で偶然出会った井深八重の「後ろ姿」から受けたインパクトが社会福祉の途に踏み出す始まりと回顧しながら、私達に次のようなメッセージを託されたことがあった。

「一人の人間の人格を重んじること。それが福祉の基盤ではないか。私たちソーシャルワーカーのアイデンティティは感性から生まれる。感性を磨くには教養が必要になる（略）実践とは生きる喜びを伝え、明日への希望を分かち合うことである」（下線はソーシャルワーク研究所、第23回日本社会福祉士会全国大会基調講演、2015年）。

このメッセージから、ソーシャルワーカーとして求められる自己に関する知識と規律の修得には、「感性」を磨き、「教養」を積み重ねる必要を説いていると読み取りたい。そして、その修得は、当事者との関係形成を重視するソーシャルワークにとって、業務の省力化に向けて多領域で関心が高まる生成AIの取り込みで叶うことは難しく、むしろ実践の「質の劣化」に繋がりかねないとする警鐘とも受けとめてみたい。

ソーシャルワーカーを目指して歩むことが将来の目標と語る高校2年生の「声」が新聞紙面に掲載されていた（朝日新聞「声・voice」2025年1月4日東京版朝刊）。さまざまな人の相談にのり、解決に向け一緒に取り組むソーシャルワーカーになるため、大学では知識を身につけ、視野を広く持てる時間を過ごしたいと言う。このような希望と夢を綴った高校生を新入生として迎え入れるであろう大学は、また、やがて新たな人材として登用するであろう実践現場は、阿部のメッセージをいかに伝えられるであろうか。第21回目となるシンポジウムでは、生きる喜びを伝え、明日への希望を分かち合うソーシャルワーク実践のあり方の共有と、さらなる汎用を目指す取り組みについて考えてみたい。

●主　　催　ソーシャルワーク研究所

●開催方法　「対面型（明治学院大学に来場）」および「オンライン型（Zoom）」のハイブリッド形式

●開催日時　２０２６年１２月６日（日）１３：００～１８：００（受付開始１２：２０）

●場　　所　明治学院大学 白金校舎（東京都港区白金台1－2－37）

●参 加 費　５，０００円

●募集定員　１２０名（対面型：８０名、オンライン型：４０名。定員になり次第締め切ります。）

●参加対象　テーマに関心があれば、どなたでもご参加いただけます。

●申込方法

1）参加を希望される方は、研究所ホームページの申込みフォームに必要事項を記入し、送信してください。折り返し、「参加申込み受付メール」を自動返信しますので、メールをご確認のうえ、参加費をお支払いください。

2）参加費は、研究所の銀行口座「みずほ銀行高輪台支店（普）１１００４６２、名義：ソーシャルワーク研究所」にお振り込みください（振込手数料はご負担願います）。ご入金後の参加費は返金いたしかねますのでご了承願います。

●そ の 他

1）「対面型（明治学院大学に来場）」および「オンライン型（Zoom）」のどちらかを選択できる方式で開催します。

2）事情により開催方法やプログラム等は変更となる場合があります。最新情報はホームページをご確認ください。

●お申し込み・お問い合わせ先

《ソーシャルワーク研究所》
〒272－0143　千葉県市川市相之川4－6－3－305
Tel ＆ Fax：047－704－8007
E-mail：swkenkyu@mail.meijigakuin.ac.jp
URL：https://wwwres.meijigakuin.ac.jp/~kitagawa/

※お問い合わせはE-mailをご利用ください。